長岡税務署長賞

いってきますと言えること

新潟県立長岡大手高等学校
一年　阿部　陽菜多

「はあ、学校行きたくないな。」
毎朝嘆く言葉。重い体を起こして学校へ行く準備をします。
「いってきます。」と元気のない声で家を出発していきます。これが私の朝です。
人生で初めて重大な選択をし、義務教育が終わった高校一年生の今。授業中、ふと教科書の裏を見ると、中学校まではあったはずの「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」の文章が高校の教科書にはありません。私の今使っている教科書は、親が多額のお金を出し買ってくれました。「大切にしよう。」と思ったと同時に「親がいない子はどうやって教科書を買っているんだろう？」と思いました。
夏休み、私のおばさん家族が家に帰省しに来ました。わいわい楽しく遊んだ日の夕方、私の妹がおばさんに聞きました。
「ねえねえおばさんって何の仕事してるの？」
するとおばさんは、妹に目線を合わせ、
「お父さん、お母さんがいなくて暮らせない子のお父さん、お母さんの代わりになる仕事だよ。」
そう言いました。この施設の正式名称は「児童養護施設」です。私は教科書のことを思い出しました。もっと児童養護施設について知りたくなり質問をおばさんにしました。
「何歳くらいの子がいるの？」
と。答えは「二歳から二十歳まで。」でした。高校や大学はどうするのか聞くと国から支援金が出ると言い、「あっそうか。」と教科書についての問いの答え合わせができました。
児童養護施設には保護者による教育が困難な子どもたちがいます。勉強がしたくてもできなかった子どもたちもいたと思います。施設では、みんなと同じように勉強をし、遊び暮らし「いってきます。」「ただいま。」と言うことができます。勉強ができること、帰る場所があることは、決してあたりまえではない事に気づきました。あたりまえにペンがあり、紙、教科書もある。学校へ行って授業が受けれる。学校から帰ってくる場所がある。すごく幸せなことだと感じました。
勉強をしたくてもできない子、帰る場所がない子が日本だけでなく世界にいます。税金は、そんな子どもたちを助けるためにあると思います。みんなと同じように生活、勉強をやる土台がないのは未来への可能性が失われているということです。未来の可能性を作るために税金があるのだと感じました。
私たちは今未来の可能性を作っています。未来への仕事をしています。未来への仕事をして一日を終えると「ただいま。」と言って帰ることができます。そしてまた「いってきます。」と言って未来への仕事に行きます。これは、あたりまえではありません。一日の始まりに「いってきます。」と言えることに感謝をして学校へ行きたいと思います。
「いってきます。」元気な声で家を出発します。